

# 就職活動体験記

鈴木 希望（経済学研究科経済学専攻）

## はじめに

私は2023年度、司書職を中心に就職活動を行い、幸運にも複数の自治体と国立大学法人等の一機関より内定を頂くことができました。本稿には、就職活動を振り返って、司書採用試験の各種選考（1. 教養試験、2. 専門試験、3. 面接試験）に対して有用と考えられる対策等を記録します。

## 1 教養試験

自治体の司書採用試験では、多肢選択式の教養試験が課されていることが多かったように思います。この場合、地方公務員行政職に準ずる形式であることが多いため、私は試験の前年度の春から立教キャリアアップセミナーの公務員試験対策講座を受講していました。自治体によって、試験時間や問題数、各科目の出題数等が異なるため、受験する自治体のHPで事前に確認し、過去の試験問題が公表されている場合は実際に解いてみると良いと思います。また、受験する自治体の過去の試験問題が公表されていない場合でも、他の複数の自治体の試験問題を解くことで、ある程度対応できるようになると思います。過去の試験問題が公表されている自治体として、具体的には大阪府（HPにて過去3年分の試験問題全体が公表）、埼玉県（職員採用HPにて例題数問が公表）、東京都（職員採用HPにて過去3年分の試験問題全体が公表）などが挙げられます。さらに、国立国会図書館インターネット資料収集保存事業（WARP）を国立国会図書館内で利用することにより、現在はHP上での掲載が終了している過去の試験問題をさかのぼって閲覧することが可能です。

国立大学法人等職員採用試験の第一次試験もおおむね公務員試験に準ずる形式の教養試験となっており、HP上に試験問題の例題が掲載されています。

また、一部の自治体等では教養試験としてSPIテストが課されています。私がこの形式への対策として利用していたのは、マイナビ2024の適性検査対策WEBテストです。このコンテンツは分野ごと（言語系、非言語系、一般常識）に学習でき、さらに各回10問で様々な形式・分野を網羅しているのでおすすめです。

## 2 専門試験（図書館情報学）

自治体によって出題形式が異なり、多肢選択式か記述式、あるいはその両方が課されます。いずれの場合についても『司書もん：図書館職員採用試験対策問題集』をしっかりと勉強することが有効な対策になると思います。この問題集には多肢選択式・記述式の両方の問題が収録されており、様々な論点について網羅的に学習できると感じました。私は当初、『司書もん』を問題演習用として使うには知識量が不足していると感じたので、最初から解答を見て問題と解答をセットで覚えるようにしていました。特に、記述問題は書く量が多いため、1周目のみ手書きで解答を書いてみて書けない漢字がないか等を確かめれば、2周目以降は声に出して読んだり、暗唱したりしたほうが効率良く勉強できる気がしました。また、上記の勉強方法では0から解答を作る練習ができないため、私は東京都2類の過去の専門試験の問題を使って解答を作成して、司書課程の小牧龍太先生に添削をしていただきました。（小牧先生、お忙しい中本当にありがとうございました。）そして、解答を作る際には『図書館情

『報学用語辞典』を参考にしていました。東京都以外にも、大阪府や国立国会図書館の過去の試験問題はHP上に公表されているので、出題されやすい論点を確認しながら、過不足なく解答できるよう練習できると良いと思います。

また、「専門試験」とは別に「論文試験」や「作文試験」が課される場合もあります。このような試験では、行政職に準じて自治体全体の政策や自身の経験等について問われる場合と、図書館に関連するテーマについて問われる場合があったので、両方の対策をしておく必要があります。私は前者への対策として公務員試験対策講座の論文対策のテキストを利用し、後者への対策としてはいくつかの自治体（埼玉県、島根県、和歌山県など）から公表されている過去の試験問題について実際に解答を作成してみることをしていました。論文試験・作文試験では専門試験として課される記述問題よりも、当該自治体の図書館の具体的な知識が求められるように感じたので、図書館のHPやそこに掲載されている図書館要覧などに目を通しておくことが重要です。また、余裕があれば自治体の基本計画等も教育にかかわる部分を中心に調べておくと、より当該自治体の実情に合致した内容が書けると思います。

国立大学法人等の図書系については、平成16年度から最新のものまで過去の専門試験の問題がHP上に掲載されています。前述の『司書もん』にも一部収録されていますが、自治体の専門試験とは明確に傾向が違うように感じたので、過去の試験問題に一通り目を通して、頻出の語句や論点について覚える必要があるように思います。また、この試験の出題範囲は一部、「検索技術者検定」の出題範囲と重なっているため、情報科学技術協会（INFOSTA）のHPに掲載されている同検定の過去の試験問題や練習問題を解いたり、公式テキスト等（本学図書館にも所蔵あり）を読んだりすると効果的です。

そして、前述のいずれの試験においても、「図書館法」や「著作権法」、「大学設置基準」など、法令に関する問題は頻出であるように思います。そのため、関連する法令については一通り目を通したうえで、近年改正があったものについてはどのような経緯で、どの点が変わったのかということに注意して覚えておくと、得点につながりやすそうです。

### 3 面接試験

面接試験は事前準備を含め対策方法が多岐にわたるため、以下に私が行った対策や、やらずに後悔したことなどについて箇条書きで記します。

#### ● 情報収集

私が就職活動で最もお世話になった情報源は司書課程を修了した先輩方の就職活動体験記です。就職活動体験記を読むことで、採用試験やその対策方法などの必要な情報を具体的に知ることができるほか、「司書になる」という夢を叶えた先輩方の体験から勇気ももらうことができます。

また、採用試験情報については日本図書館協会HPの求人情報のページや、「図書館司書になる！」というページから得ていました。受験先が決定した後は、図書館のHPや公式SNS、YouTubeチャンネル等を確認して、館の特徴などについて調べておくと独自の魅力が分かり、「なぜその館（自治体・機関）を志望するのか」という部分を明確にできます。

#### ● 図書館訪問

図書館を実際に訪問することで図書館へのアクセス方法、利用者層やサービスの特徴、接遇などが分かります。私自身は修士論文の参考文献を探している時期に図書館を訪問したの

で、フロアにいらっしゃる司書の方に実際にレファレンスサービスをお願いしたこともあり  
ました。企画展示の見学などもでき、筆記試験勉強中の気分転換としても非常に効果的  
です。また、採用を希望する図書館が実習生を受け入れている場合はその館で図書  
館実習を経験できると、実際の業務内容をより詳細に知ることができると思いま  
す。

### ● OBOG 訪問

キャリアセンター内の専用 PC から卒業生情報の検索・閲覧し、志望先の図書館で働  
いていらっしゃる先輩方と連絡をとることができます。私は OBOG 訪問を検討し始め  
た時期が遅かったため、ご迷惑になってしまうのではないかと考えて断念しまし  
たが、早い時期から志望先が決まっていた、尚且つその館に勤めている卒業生  
の方がいらっしゃる場合には実際にお話を伺うと良いと思います。

### ● 自己分析

私はマイナビの HP 上にある自身の性格や職種別の適性を調べられるツールを  
活用しました。自身の長所・短所とそれぞれの職種で必要とされる能力などが分  
かるため、面接カードの内容や面接での受け答えの参考になります。さらに、友  
人や家族等の身近な人から自身の長所・短所について直接聞いてみることで、  
より客観的な分析ができると思います。

### ● 面接カード・エントリーシートの作成

文字数の指定がある場合は厳守し、ない場合でも質問文のフォントサイズを目  
安にしておよその文字数を決めてから書くようにしていました。誤字・脱字や主  
述のねじれ等がないよう気を付けるほか、アピールしたい点を面接で掘り下  
げてもらえるよう、伝えたい情報を過不足なく伝えることが必要だと思いま  
す。

### ● 面接練習

まずは、自己分析や作成した面接カードをもとに想定問答をすることが有効だ  
と思います。面接カードがある場合は、基本的にカードの内容に沿って質問され  
た印象があるため、記入した内容を覚えて、矛盾なく簡潔に答えられるように  
することが必要です。特に、公務員試験では面接試験の点数が開示される場  
合が多く、評価項目や着眼点等が明確に存在していることが予想されます。  
そのため、想定問答の際には評価対象となりそうな力（積極性、行動力など）  
が簡潔に伝わるように話すことを意識すると、本番の面接を円滑に進めるこ  
とができそうです。また、司書職の面接試験で問われる独自の論点は、「なぜ  
司書として働きたいのか」、「なぜその館なのか」ということに集約される  
ように感じます。これらの質問の深掘りに対応できるよう、司書を志した時  
期・きっかけや業務内容のどこに魅力を感じるか、自らの性格や経験をどの  
ように活かそうかなどについて考えておくことが重要だと思います。その際  
には、「～だから、司書として/その館で働きたい」と考えるだけでなく、「司書  
でなければ/その館でなければ、～できないから」という方向からも検討す  
ると、より論理的に話すことができると考えられます。具体的には、

- ・ なぜ行政職や教員、書店員などではなく司書として働きたいのか  
（≒司書としてしか達成できない目標は何か）
- ・ どのような利用者層に/どのようなサービスを提供したいか など

について、館種（公共、学校、大学など）、自治体・機関の規模（国、都道府県、市町村など）による図書館の役割の違いなどを踏まえて回答すると説得力が増すと考えられます。

一人での想定問答が済んだ後は、友人や先輩などの対人練習が効果的です。この際には特に、近い職種を目指している友人や現に志望先の職場で働いている先輩などをお願いすると、より本番に近い練習ができたり、就職活動に関する悩みや心配事の共有、解消ができたりするようになります。それに加え、大学のキャリア相談や自治体の設置しているジョブカフェ等も利用すると、面接の練習量が確保しやすくなると思います。

## おわりに

私はすべての受験先が第一志望であると思って就職活動を行っていました。もちろん、最終的には一か所にしか就職できません。しかし、だからこそすべての受験先に対して、心から「ここで働きたい」という気持ちを持つことが、最後まで就職活動を頑張る原動力になっていたと思います。これから進路を決められる方にとって、本稿が少しでも参考になれば幸いです。皆さまの就職活動が後悔のないものになりますよう、応援しています。

最後になりますが、先生方、先輩、友人、後輩、家族、面接官の方々をはじめ、就職活動を支えてくれたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。

## 参考文献

- 後藤敏行『司書もん：図書館職員採用試験対策問題集 第1巻』図書館情報メディア研究会，2020.  
後藤敏行『司書もん：図書館職員採用試験対策問題集 第2巻』図書館情報メディア研究会，2020.  
後藤敏行『司書もん：図書館職員採用試験対策問題集 第3巻』図書館情報メディア研究会，2020.  
日本図書館情報学会用語辞典編集委員会『図書館情報学用語辞典』丸善出版，2020.  
原田智子，吉井隆明，森美由紀『検索スキルをみがく：検索技術者検定3級公式テキスト』樹村房，2020.